

2回の適期防除で イネカメムシの被害を防ぎましょう！

1 イネカメムシの発生状況

【2025年】

- ・発生地域が県北部まで拡大
- ・県南部の発生量は多かったが、適期防除の徹底で被害抑制

【2026年】

- ・県中東部でも越冬量の多い地点を確認

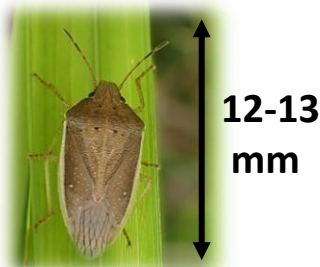


写真 イネカメムシ

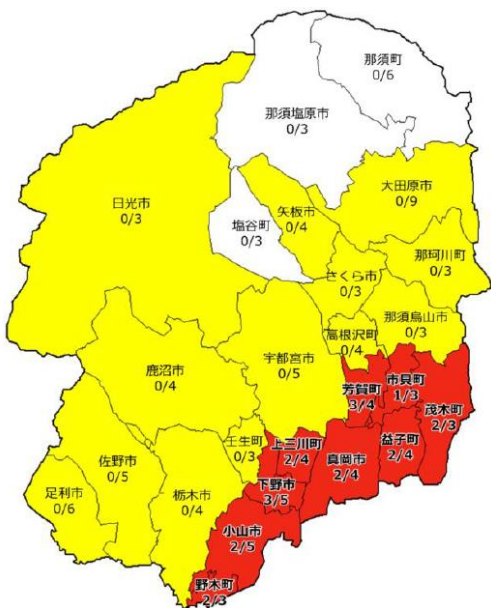


表 越冬世代と当年世代の捕獲数の推移

	越冬世代の捕獲数	地域の防除状況	当年世代の捕獲数	イネカメムシ被害概評
2023年	0頭	△ 増加 0~1回	3頭	詳細不明 潜在的な被害?
2024年	2頭	△ 増加 0~1回	317頭	被害大
2025年	183頭	◎ 減少 出穂+乳熟の2回	30頭	被害少
2026年(予測)	20頭?	◎ 減少	数頭?	被害少
	2024年の10倍程度?	△ 増加	数百~数千頭?	被害大

図1 栃木県の発生越冬確認状況 (2026年2月)

※図中の数値は、確認地点数/調査地点数
 赤：2026年の越冬確認地域 (注意が必要)
 黄：前年までに発生が確認されている地域

防除水準を0~1回に戻すと、被害の再発に繋がる懸念がある！
 → **令和8年産も2回防除は必須**

2 防除対策

	出穂期	穂揃期	乳熟初期	乳熟後期	収穫後
こまめにほ場を確認!	(1) 薬剤防除				(2) 秋耕
イネカメムシ対策	薬剤散布 1回目 不稔防止	7~10日後	薬剤散布 2回目 斑点米防止	7~10日後	追加防除 3回目 斑点米防止
(3) 除草	除草②		イネカメムシ含む 斑点米カメムシ類 全般の対策		
	2~3週間前		除草①		
					秋耕 生息場所除去

図2 イネカメムシの発生地域における斑点米カメムシの防除対策